

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		公表日 令和7年2月1日				
コベルプラス富田教室						
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	5		レイアウトを工夫し、十分に活動できるスペースを整えている。	今後も安全面、子どもの特性などに配慮し、十分なスペースの確保に努めていく。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	5		一人は臨機に動ける職員として配置できるよう、シフトの組み方を工夫している。	余裕のある人数ではない。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	4	1	部屋の名前をイラストで大きく作り、わかりやすく掲示している。	トイレは完全なバリアフリーではないが、手洗い場にステップを置いたり、幼児用補助便座を用意するなどの対応をしている。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	5		清掃を徹底し、清潔に保っている。子ども達が活動しやすいよう、レイアウトを工夫している。	声を掛け合い、清掃の徹底に努める。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	5		療室や、相談室など、個別に過ごしたい時に対応できるようになっている。	
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	5		共有ノートやミーティングで、すべての職員が参画できている。	業務改革のための目標設定、振り返りを多くの職員と共有していけるよう努める。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5		頂いたご意見をもとに、問題速やかな改善に取り組んでいる	振り返りや反省に繋げ、改善していく。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5		日常的に話やうい環境を整えている。	必要に応じて面談の機会を設けていく。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		4		第三者評価を実施していない。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	5		定期的に内部研修を行っている。	外部の研修を受ける機会も作っていきたい。
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	5		作成公表されている。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	5		十分なアセスメントやモニタリングを行い個別支援計画を立てている。	今後も、個々のニーズ、課題の把握に努める。
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	5		支援会議を行い共通理解を図っている。	ミーティングや会議を定期的に行う。
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	5		常に目につきやすい場所にファイリングしている。	ミーティングをごまめに行い共有していく。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	5		様々な角度から行動観察している。	お子さまの十分な行動観察に加え標準化されたツールのアセスメントを行っていく。
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	5		設定している。	今後も徹底していく。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	5		個別支援について、又課題の提供の方法についてミーティングを行っている。	今後も共通認識を持てるよう徹底していく。

供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	5		コペルの課題教材がバラエティに富んでいる 為固定化されていない。	提示方法など工夫していく。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせで児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	5		集団と個別の組み合わせで支援を行っている。	今後も子どもの状況に応じて行っていく。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	5		こまめな連携を行っている。	今後も適宜連携が取れるようにしていく。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	5		こまめな共有を行っている。	今後も適宜共有を行っていく。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	5		記録は必ず取っている。	今後もしえんのけんしょうに、記録をつなげていく。
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	5		定期的なモニタリングを行っている。	今後も定期的なモニタリングを行っていく。
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	5		良く知ったものが参画している。三角前には打ち合わせをしている。	今後も、子どもの状況を理解したうえで、参画していく。
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	5		関係機関連携を行っている。	
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	5		園との関係機関連携を行っている。	
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	5		移行支援を行っている。	
	28	(28～30は、センターのみ回答)				
		地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答)	3	1	随時、市の児童発達支援センターと連携し助言を受けている。	
		地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。				
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。		5	事業所の性質上そのような機会はない。	
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	5		十分に共通理解が持てていると思う。	今後も、保護者と共通理解が持てるよう、伝えあっていけるようにする。
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	4	1	行っている。	
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	5		説明している。	
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	5		設けている。	今後も子どもの最善の利益を最優先に考慮し家族の意向を確認していく。

保 護 者 へ の 説 明 等	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	5		児発管が、示しながらの説明を行っている。	今後も丁寧な説明を行っていく。
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	5		臨機に、面談を行い具体的な方法を提案したり必要があれば、他事業所へつなぐなどの支援を行っている。	今後も、定期的、臨機、状況に応じて相談に応じていく。
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	5		茶話会、父母会、ペアトレなどで交流の機会を設けている。	今後も交流の機会を設けていく。
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	5		対応している。	今後も迅速に対応していく。
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	3	2	LINEやHUGを利用している。	今後も、HUGやLINEをごまめに使用していく。
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	5		十分留意している。	研修などで共通認識できるようにしていく。
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	5		子どもの特性に応じて、絵カードなどのツールを利用したり、保護者への伝え方にも配慮している。	今後も具体的に配慮していく。
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		5	事業所の性質上行っていないが、同じビルのテナントの方々とは、交流がある。	
非 常 時 等 の 対 応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定するとともに、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	5		契約時にご説明しており、訓練を年に2回行っている。	今後も周知の徹底、訓練を行っていく。
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	5		行っている。	今後も、行っていく。
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	4	1	初回アセスメントでお聞きしている。	
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。			食事の提供がない。	
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	5			
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	5		周知が徹底されるよう心がけている。	今後も周知されるよう努力していく。
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	5		ヒヤリハットの案件になるか話し合い、あげるようにしている。	再発防止について、ミーティングを行い徹底している。
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	5		研修をしている。	今後も定期的な研修を行っていく。
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	5		契約時にご説明し、承諾書をいただいている。	矢無負えない状況について、共通理解をさらに深め、徹底していく。